

2019年3月期 決算説明会

2019年5月13日

日本システムウェア株式会社

代表取締役執行役員社長 多田 尚二

- 1. 2019年3月期決算概況**
- 2. 新中期経営計画、
および 2020年3月期計画**

Humanware By Systemware

1. 2019年3月期 決算概況

連結業績 概要

(単位:百万円)

	2019年 3月期 実績	期初計画比		前期比		期初計画	2018年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
		売上高	36,107	+1,107	+3.2%		
営業利益	3,354	+354	+11.8%	+413	+14.1%	3,000	2,940
同率	9.3%	+0.7p	/	+0.4p	/	8.6%	8.8%
経常利益	3,407	+387	+12.8%	+432	+14.5%	3,020	2,975
同率	9.4%	+0.8p	/	+0.5p	/	8.6%	8.9%
当期純利益	2,286	+216	+10.5%	+220	+10.7%	2,070	2,065
同率	6.3%	+0.4p	/	+0.1p	/	5.9%	6.2%
受注高	36,738	/	/	+1,905	+5.5%	/	34,832
受注残高	14,408	/	/	+631	+4.6%	/	13,777

▶ 売上、利益ともに過去最高を更新。

ITソリューションセグメント 概況(1)

(単位:百万円)

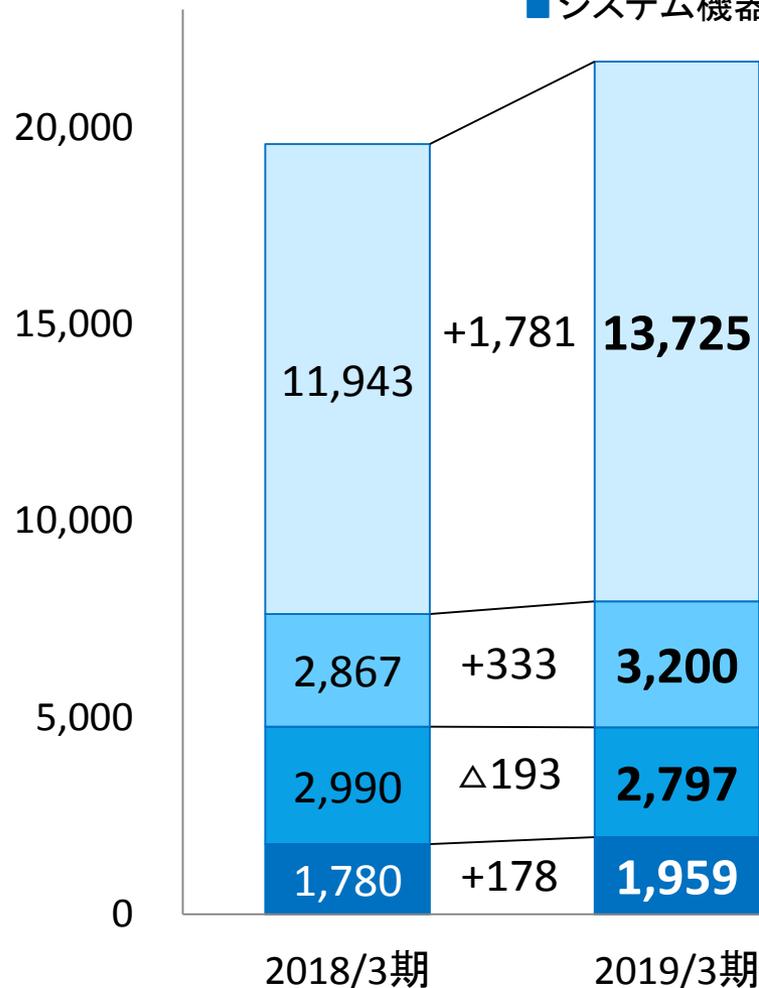
	2019年 3月期 実績	期初計画比		前期比		期初計画	2018年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	21,764	+1,064	+5.1%	+2,086	+10.6%	20,700	19,678
ソリューション事業	13,725			+1,781	+14.9%		11,943
システム運用事業	3,200			+333	+11.6%		2,867
データセンター事業	2,797			△193	△6.5%		2,990
システム機器販売	1,959			+178	+10.0%		1,780
その他	81			△14	△15.2%		95
営業利益	1,522	+372	+32.4%	+397	+35.3%	1,150	1,125
同率	7.0%	+1.4p		+1.3p		5.6%	5.7%
受注高	21,779			+897	+4.3%		20,881
受注残高	10,748			+14	+0.1%		10,733

ITソリューションセグメント 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)

- ソリューション事業
- システム運用事業
- データセンター事業
- システム機器販売



【ソリューション事業】

- 官公庁・団体
中央官庁や団体向けシステム開発が増加
- 情報・通信
既存顧客深耕、WEB・ECサービスも増加
- 小売
既存顧客深耕、新規顧客開拓により増加
- 金融・保険
損保系の対応領域拡大により増加
- 製造
前期大型案件の反動により減少
IoT関連システム構築は堅調に推移

【システム運用事業】

データ連携サービスやリモート運用等が増加

【データセンター事業】

ハウジング・ホスティングは苦戦
クラウドやIoT関連サービスは堅調推移

【システム機器販売】

小売業向けを中心に増加

プロダクトソリューションセグメント 概況(1)

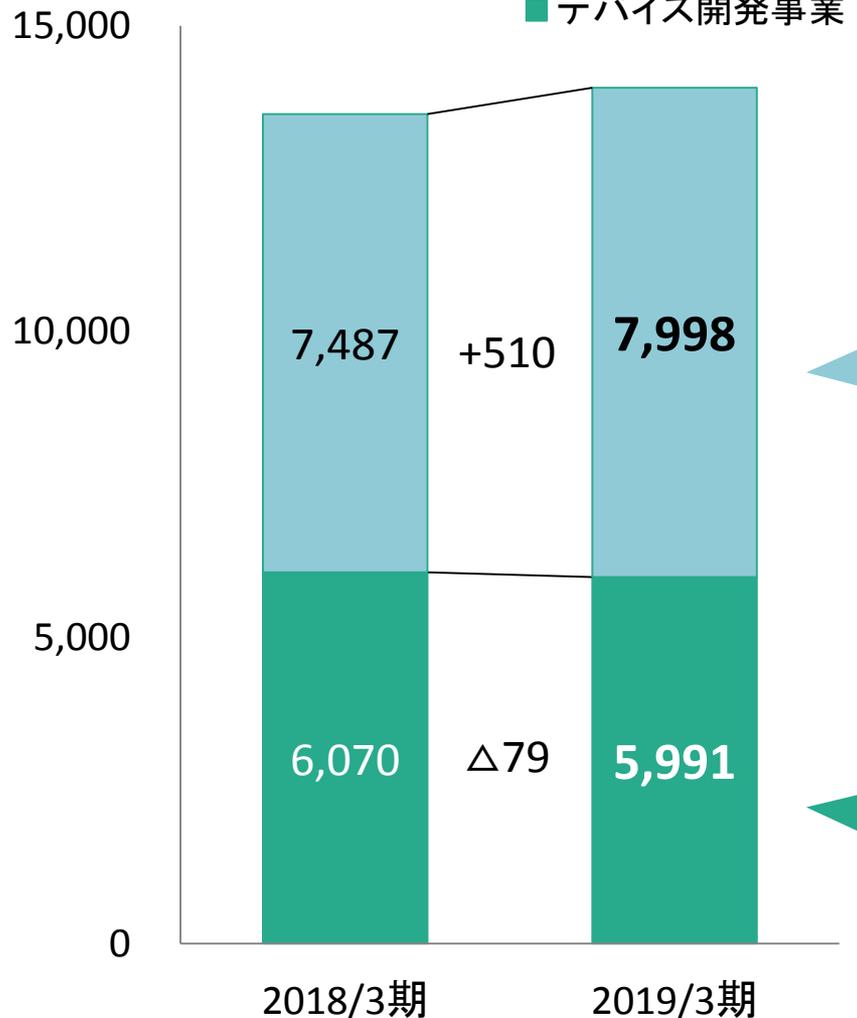
(単位:百万円)

	2019年 3月期 実績	期初計画比		前期比		期初計画	2018年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	14,342	+42	+0.3%	+518	+3.7%	14,300	13,824
組込みソフトウェア開発事業	7,998	/		+510	+6.8%	/	
デバイス開発事業	5,991			△79	△1.3%		
その他	353			+87	+32.8%		
営業利益	1,831	△19	△1.0%	+16	+0.9%	1,850	1,815
同率	12.8%	△0.1p	/		△0.2p	12.9%	13.1%
受注高	14,959	/		+1,007	+7.2%	/	
受注残高	3,660			+616	+20.3%		

プロダクトソリューションセグメント 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)



【組込みソフトウェア開発事業】

●オートモーティブ

IVI系の新規顧客開拓、走行安全やモビリティ系が増加

●モバイル

通信キャリア向け開発案件が減少

●設備機器

製造設備、医療機器などの新事業領域、SW/HWのワンストップ開発事業の拡大

●通信インフラ

既存案件を中心に横ばい

【デバイス開発事業】

既存顧客案件が一部減少も、得意分野で横展開。前期水準を維持

※IVI(In-Vehicle Infotainment) : 主に車載システムにおいて、情報(インフォメーション)と娯楽(エンターテイメント)を提供するシステムの総称

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2019年3月期 期末	2018年3月期 期末	前期末比
流動資産	19,395	16,587	+2,808
固定資産	8,816	8,782	+34
資産の部	28,211	25,369	+2,842
流動負債	6,779	5,917	+862
固定負債	2,235	2,138	+97
負債の部	9,015	8,056	+959
純資産の部	19,196	17,312	+1,883
流動比率	286.1%	287.4%	△1.3p
固定比率	45.9%	48.3%	△2.4p
自己資本比率	68.0%	68.2%	△0.2p

現金及び預金 +1,808
受取手形及び売掛金 +729

未払法人税等 +353
賞与引当金 +279
買掛金 +144
前受金 +102

繰越利益剰余金 +1,835

連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2019年3月期	2018年3月期	前年同期比 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	6,593	4,852	+1,741
営業活動による キャッシュ・フロー	2,657	2,289	+368
投資活動による キャッシュ・フロー	△424	△253	△170
財務活動による キャッシュ・フロー	△419	△298	△121
現金及び現金同等物の増減額	1,808	1,741	+67
現金及び現金同等物の期末残高	8,402	6,593	+1,808

税前当期純利益	3,398
減価償却費	460
賞与引当金	279
売掛債権	△726
たな卸資産	△258

有形固定資産取得	△230
無形固定資産取得	△64

配当金の支払	△409
--------	------

セグメント情報の変更

新・中期経営計画の開始にあたり、報告セグメント区分を以下のとおり変更

現セグメント

ITソリューション	
	ソリューション事業
	システム運用事業
	データセンター事業
	システム機器販売
	その他

プロダクトソリューション	
	組込みソフトウェア開発事業
	デバイス開発事業
	その他

セグメント名
事業区分名

新セグメント

ITソリューション	
	ビジネスソリューション
	金融・公共ソリューション
	システム機器販売
	その他

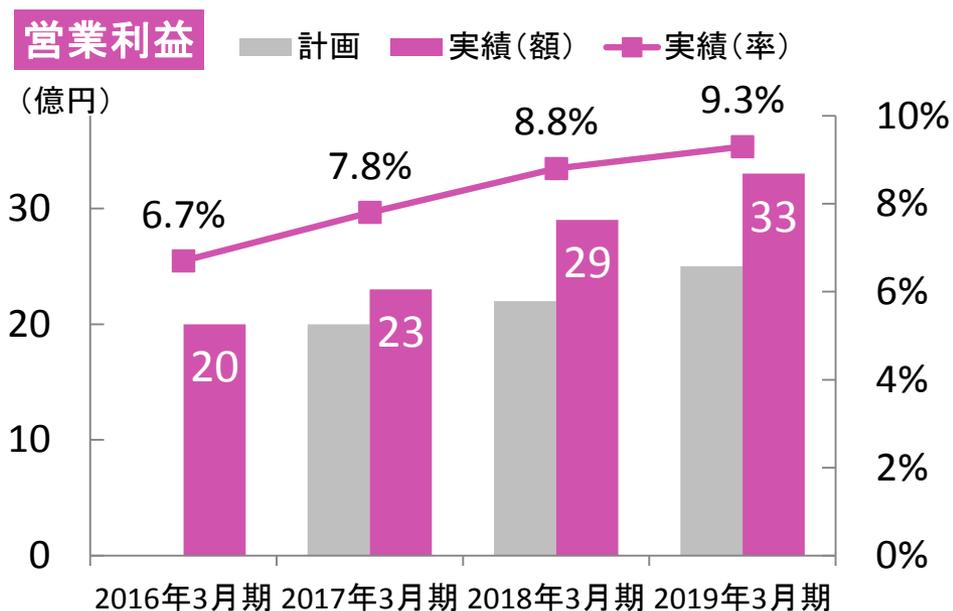
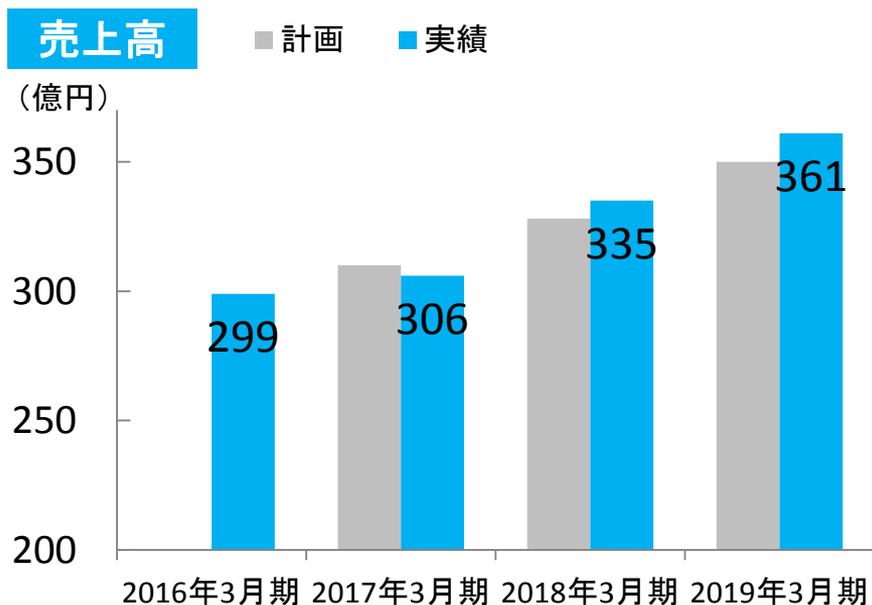
サービスソリューション	
	デジタルソリューション
	クラウド・インフラサービス
	その他

プロダクトソリューション	
	組込み開発
	デバイス開発
	その他

名称変更のみ

前中期経営計画 総括(1)

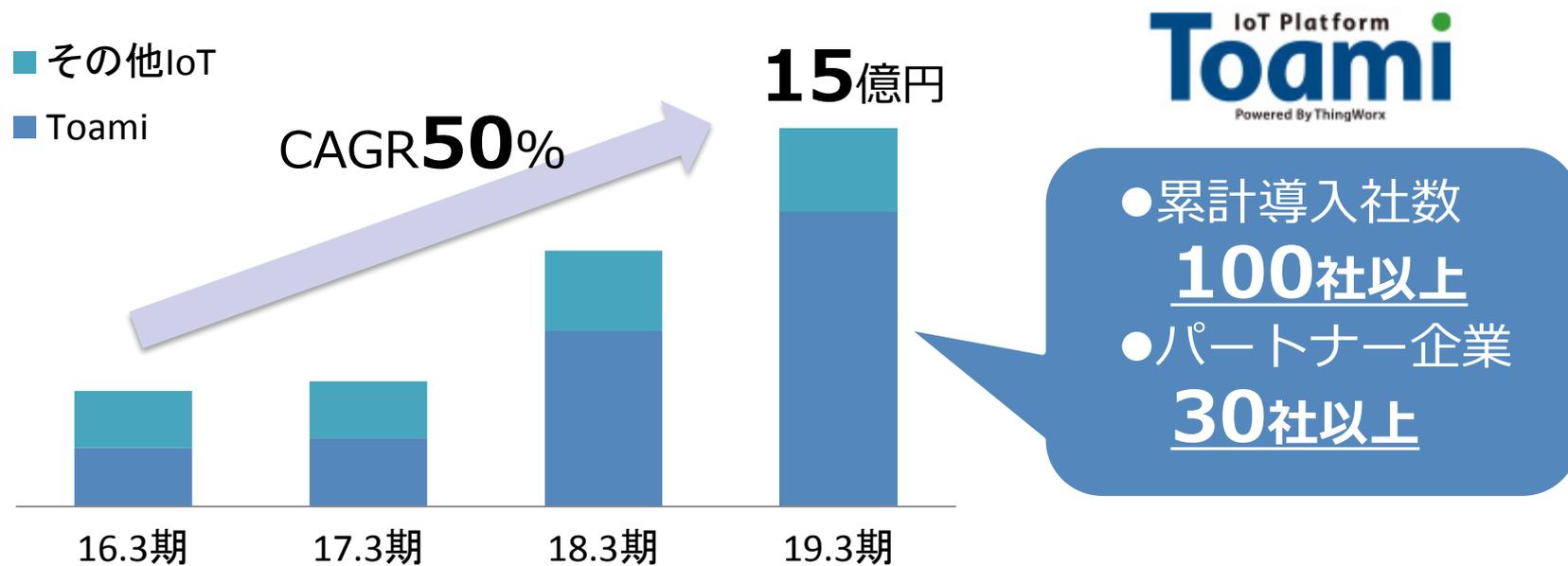
	2019/3期目標	(CAGR)	実績	(CAGR)
売上高	350億円以上	5.5%以上	361億円	6.4%
営業利益	25億円以上	9.0%以上	33億円	18.4%
営業利益率	7.0%以上		9.3%	
ROE	8.0%以上		12.5%	



11期ぶり過去最高売上高更新、3期連続の最高益更新

前中期経営計画 総括(2)

■IoTサービス事業のさらなる拡大



- ✓ 「製品のIoT化」で多数の導入実績、事例の横展開が進む
- ✓ アライアンスパートナーの拡充
- ✓ FactoryIoT、分析AIなど、関連サービスの引合いも増加

前中期経営計画 総括(3)

■既存コア事業の顧客基盤強化と高付加価値化

ITソリューション

- 流通業向けなど大規模案件の対応力向上
- 生損保、社会保障分野の対応領域拡大

サービス

- 製造業向けなどIoT・AI関連サービスの拡大
- データセンター事業のクラウド化と、運用サービスの上流シフト

組み込みソフトウェア開発

- オートモーティブ、モビリティソリューションの拡充
- 設備・精密分野では家電ほか、医療機器向けを開拓

デバイス開発

- 開発体制増強し、お客様ニーズへの対応力強化
- 強みである画像処理技術をAI関連の新サービスに応用

⇒企業のIT投資に支えられ、着実に拡大・成長

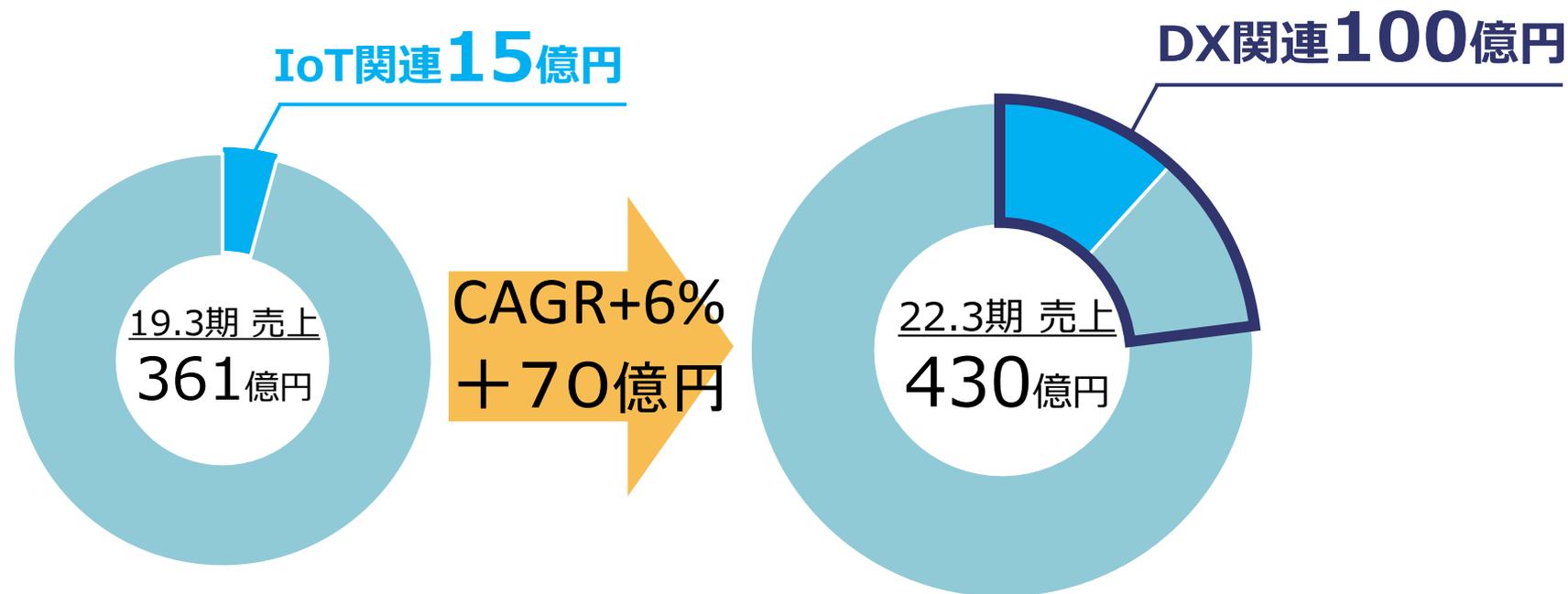
Humanware By Systemware

2. 新中期経営計画 および2020年3月期計画

新中期経営計画の概要

DX FIRST

お客様のDX実現を先導する企業へ



※DX (Digital Transformation)

企業が新たなデジタル技術を活用してビジネスモデルを創出したり、ビジネスプロセスを変えていく事業変革の取り組み

当社を取り巻く環境

社会・経済

- 海外情勢による景気変動懸念（米国・中国の対立軸、英国のEU離脱問題ほか）
- 消費増税等による国内景気の減速懸念
- 働き方改革推進、生産年齢人口減少など生産性向上が急務に

I T 業界動向

- デジタル変革（D X）への取り組みの本格化など、I T 投資は安定的成長が期待される
- 働き方改革推進による生産性改善目的のI T 投資も増加傾向
- 深刻なI T 技術者不足
- 「2025年の崖」の克服

⇒ D X 対応と人材確保がポイント

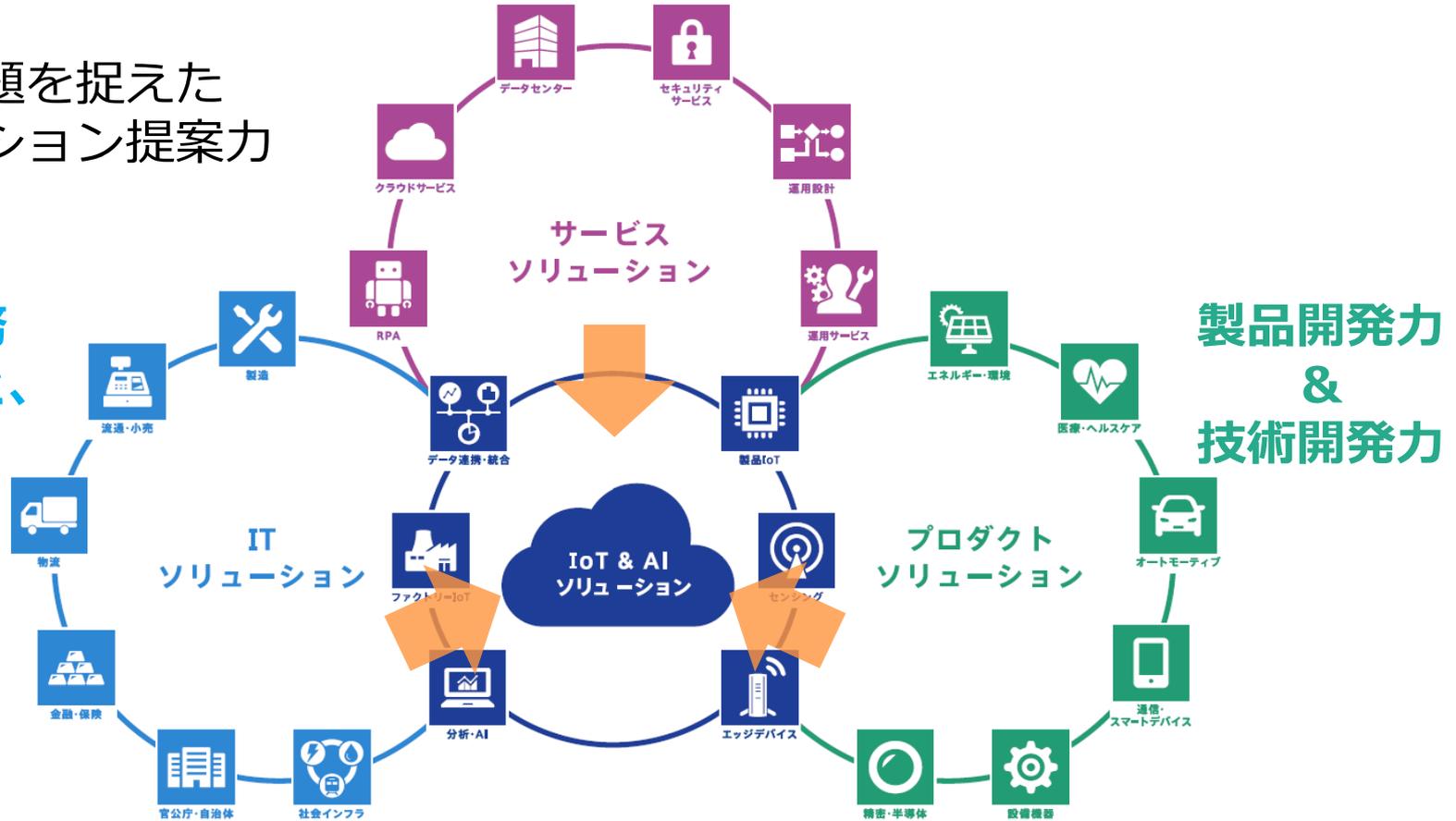
当社の強み

Humanware By Systemware

サービス・コーディネート力
とプラットフォーム提供基盤

お客様課題を捉えた
ソリューション提案力

業種・業務
ノウハウと、
システム
構築力

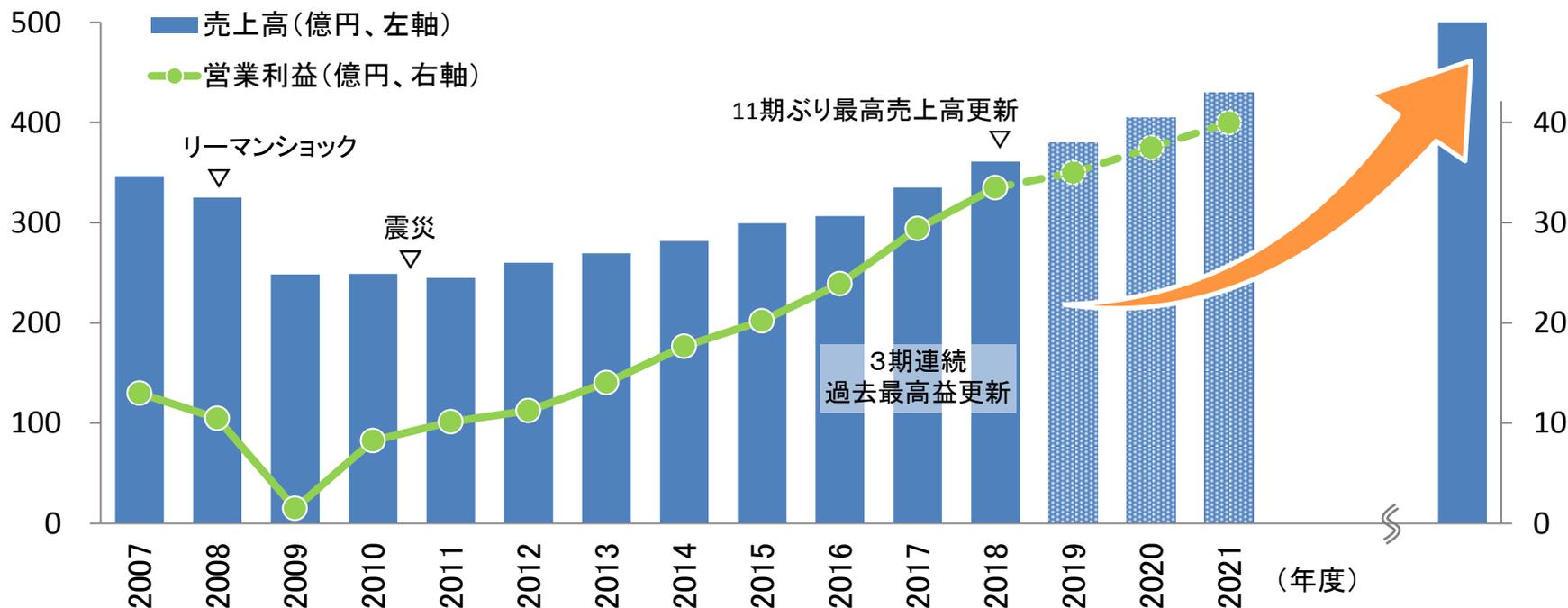


製品開発力
&
技術開発力

IoT & AI を軸にDX実現を支援できるバックボーン

中長期ビジョンと本計画の位置づけ

NSW Next — 価値創造企業、強いNSWへ



⇒お客様のDX実現に貢献することで、価値創造企業への変革を実現

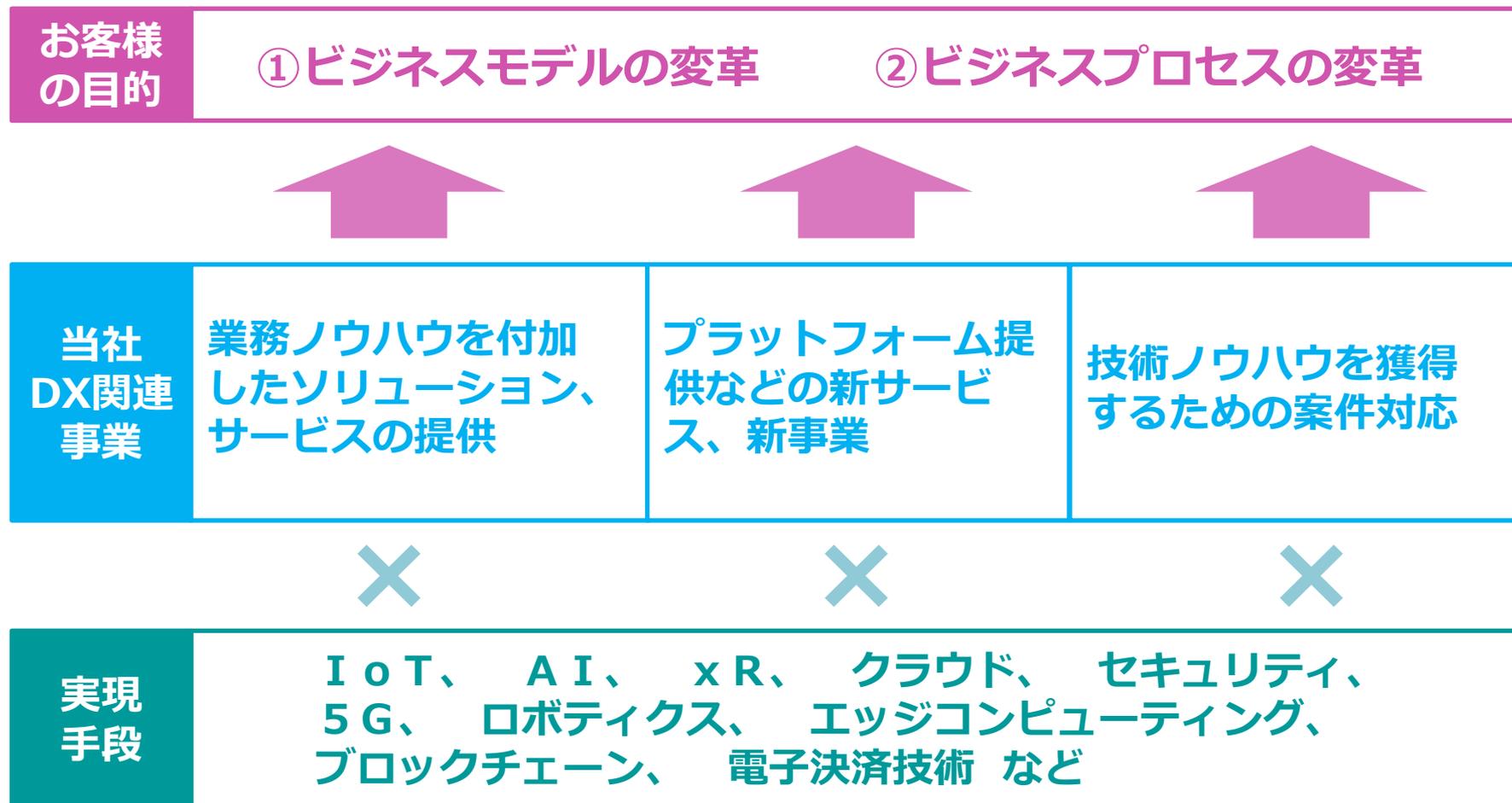
DX FIRST

お客様のDX実現を先導する企業へ

(単位:百万円)

	2019/3期 実績	2020/3期 計画	前期比		2022/3期 計画	CAGR
			増減額	増減率		
売上高	36,107	38,000	+1,893	+5.2%	43,000	+6.0%
うちDX関連	1,500	3,000	+1,500	+200.0%	10,000	+88.2%
営業利益	3,354	3,500	+146	+4.3%	4,000	
同率	9.3%	9.2%	△0.1p		9.3%	
経常利益	3,407	3,540	+133	+3.9%	4,040	
同率	9.4%	9.3%	△0.1p		9.4%	
当期純利益	2,286	2,400	+114	+5.0%	2,800	
同率	6.3%	6.3%	+0.0p		6.5%	

当社グループにおけるDX関連事業



DX対応に向けた3事業の連携

NSW



お客様

DX推進部門

製造業
流通業
物流業
建築業 etc.

- ビジネスモデル変革
- マネジメントサイクル、サプライチェーンの最適化
- 自動化、無人化、省力化

ITソリューション 事業方針

- 各業種の業務ノウハウと、IoT、AI、RPAなどDXソリューションの連携
- 生損保、電子決済、社会保障の領域拡大と安定化

業務ノウハウ活用し、DXソリューションを提供

対応領域の拡大



製造

- ・生産管理システム
- ・PLM/PDM/CAD
- ・スケジューラー
- ・在庫口セッション管理



流通

- ・POSシステム
- ・オーダリングシステム
- ・マーチャндаイジング
- ・販売管理システム



物流

- ・入在庫管理システム
- ・文書管理システム
- ・物流KPI管理システム
- ・配車・配送管理



金融保険

- ・生損保向け各種システム
- ・証券向け各種システム
- ・タブレット決済システム
- ・電子マネーシステム



官公庁

- ・国保請求システム
- ・各種統計システム
- ・国民健康保険システム
- ・介護保険システム

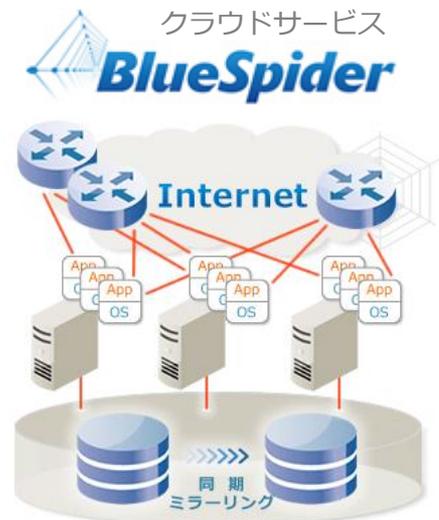
目標

	2019/3期 実績	2020/3期 計画	前期比(増減)		2022/3期 計画
売上高	12,559	13,200	+640	+5.1%	15,000
営業利益	1,228	1,250	+21	+1.7%	1,400
同率	9.8%	9.5%	△0.3p		9.3%

(2019年7月26日)子会社の新報告セグメントへの読替えにおいて一部誤りがあったため、「ITソリューション」と「サービスソリューション」の2019年3月期実績および2020年3月期計画の内訳を訂正しております。

サービスソリューション 事業方針

- IoT、AIを軸としたDX関連サービス・ソリューションの牽引と拡大
- クラウドサービスの拡充と、DCサービスの最適化
- 労働集約型の運用から付加価値サービス型への転換、収益基盤強化



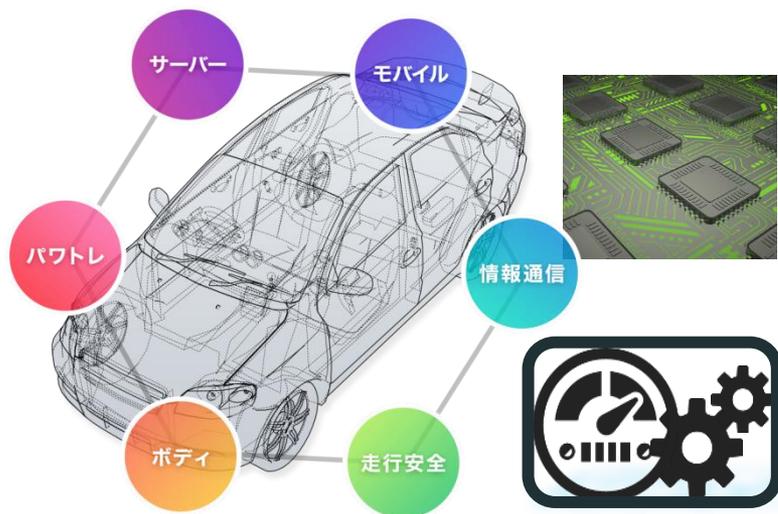
■ 目標

	2019/3期 実績	2020/3期 計画	前期比(増減)		2022/3期 計画
売上高	9,204	9,800	+595	+6.5%	11,000
営業利益	294	380	+85	+29.1%	500
同率	3.2%	3.9%	+0.7p		4.5%

(2019年7月26日)子会社の新報告セグメントへの読替えにおいて一部誤りがあったため、「ITソリューション」と「サービスソリューション」の2019年3月期実績および2020年3月期計画の内訳を訂正しております。

プロダクトソリューション 事業方針

- 既存領域における技術優位性の確立および価値拡大
- 付加価値技術のプロダクト化、サービス化
- 長期視点に立ったコア技術の蓄積



Edgeデバイス、
モータ、センサ、
AI、画像認識、
5G、LPWA、
電子決済など



■ 目標

	2019/3期 実績	2020/3期 計画	前期比(増減)		2022/3期 計画
売上高	14,342	15,000	+657	+4.6%	17,000
営業利益	1,831	1,870	+39	+2.1%	2,100
同率	12.8%	12.5%	△0.3p		12.4%

DX推進と事業シナジーの最大化

DX FIRST 実現に向けて

人材
育成・活用

機動力、対応力UP
最適・柔軟な人員配置
働きやすい環境づくり

ビジネス
アライアンス

事業提携先拡充
M&A
海外の有望商材発掘

技術力

要素技術の追求
研究開発投資
産学連携

事業連携

推進体制最適化
コーディネート人材
の増強

リソース
パートナー

国内パートナー連携強化
海外人材活用

ブランド力
向上

マーケティング活動強化
(NSW=DX企業の浸透)
広報・広告宣伝の展開

成長戦略と財務健全性を両立した財務戦略の実現

資本効率

- 健全な自己資本の水準を維持
- 株主資本利益率(ROE)12%以上の持続的成長

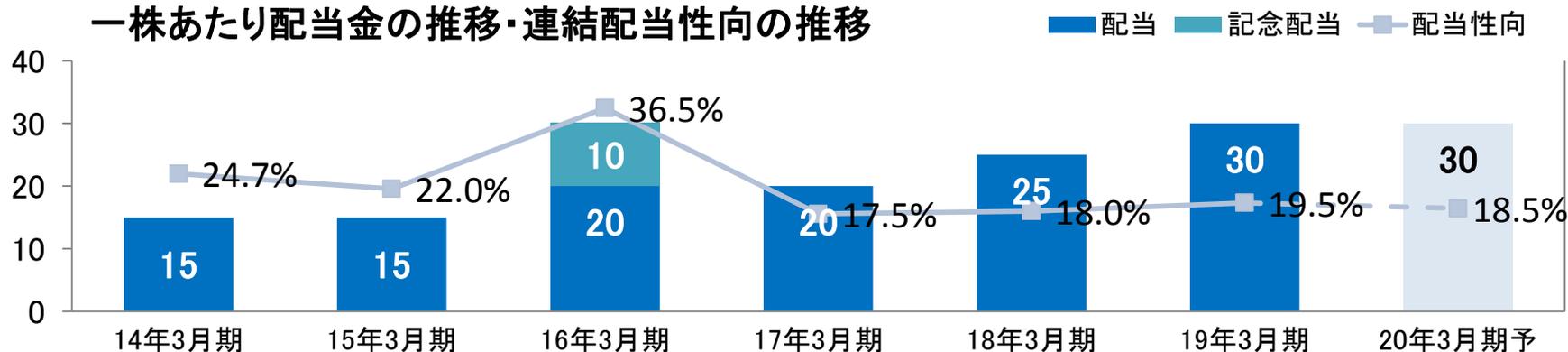
株主還元

- 安定配当を基本とし、業績連動による還元も実施
- 財務状況に応じた機動的な株主還元の検討

成長投資

- 将来の企業成長に必要な投資を継続
研究開発、M&A・アライアンス、人材育成

一株あたり配当金の推移・連結配当性向の推移



NSW

Humanware By Systemware